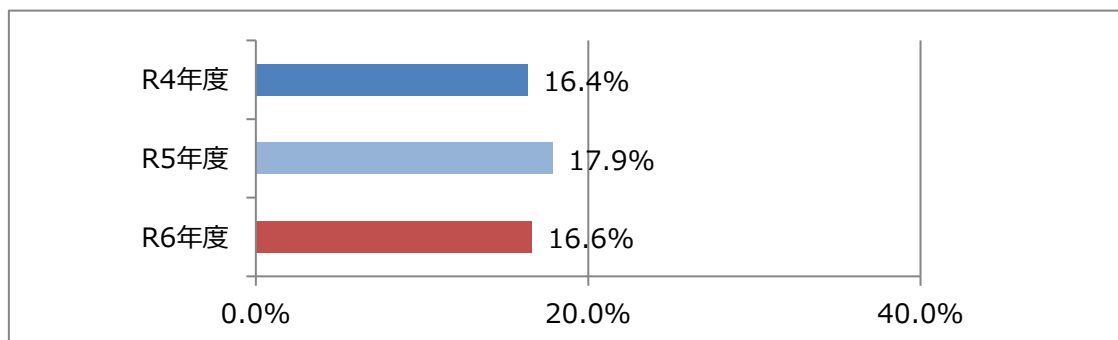


検査に関連する指標

腹部超音波検査中の肝臓造影検査の割合



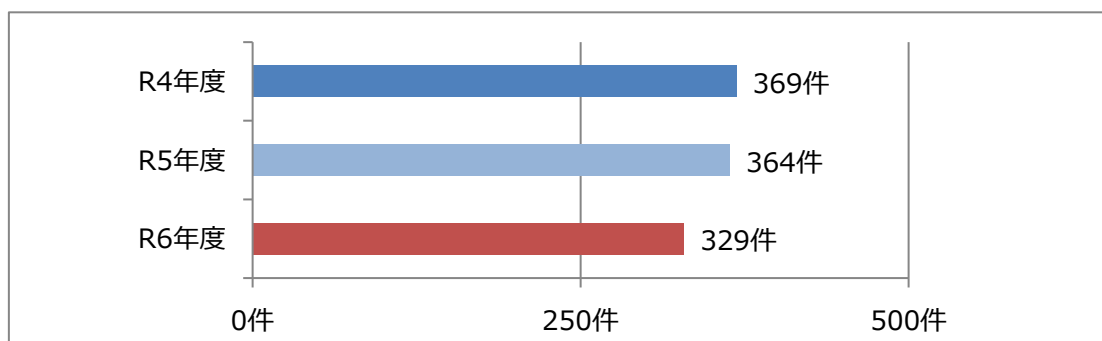
		R4 年度	R5 年度	R6 年度
分子	分母中、造影超音波検査が行われた件数	1,397	1,612	1,507
分母	肝炎・がん患者などの腹部超音波検査件数	8,541	9,022	9,066

指標の説明

当院では 2008 年 8月より造影検査を導入しています。超音波造影剤のソナゾイドは呼吸により排出され、腎機能が悪い患者でも検査が可能な有効な検査です。

造影超音波検査、特に後期相の評価は、従来の超音波検査に比べ、原発性肝癌や転移性肝癌の検出率が非常に高く、術前の評価・術後の経過観察に有効です。

術中迅速病理標本作製件数



		R4 年度	R5 年度	R6 年度
実数	術中迅速病理標本作成件数	369	364	329

指標の説明

術中迅速診断は、手術中に組織の一部について凍結切片による病理標本を作製し、限られた時間内に良・悪、転移の有無、取り残しの有無などについて調べます。診断結果によっては術式や手術範囲が変更されることもあります。当院は地域のがん診療連携拠点病院であり、専門性の高い検査として診療に貢献しています。